

講師を紹介します！

鳥取県文化財保護審議会委員／
鳥取短期大学非常勤講師

きたむら まさこ
喜多村 理子 氏



鳥取県教育委員会事務局文化財課
文化財主事

はらしま ともこ
原島 知子 氏



専門は日本民俗学・歴史民俗学。米子市史、智頭町誌、新鳥取県史の編さんに関わり、県内の民俗事象について多くの調査を行ってきた。「因幡の麒麟獅子舞」調査事業においては「地域社会における麒麟獅子」を担当し、各地域において麒麟獅子舞がどのようにとらえられて伝承されてきたかについて考察した。

主な著書:『神社合祀とムラ社会』(岩田書院)、『微兵・戦争と民衆』(吉川弘文館)

専門は日本民俗学。平成18年度から民俗文化財の専門職として、県内の祭り・行事や芸能の調査研究、保存にたずさわってきた。近年は「因幡の麒麟獅子舞」調査事業の担当者として、100ヶ所近くの獅子舞を訪ねてまわり、同じように見えても、それぞれの地域で少しずつ違いがあることの面白さを実感した。

学習する場所はどんなところ？

岩坪神社

伝承によると、慶安3年(1650)に、鳥取藩主池田光仲が、鳥取市鷲舎に日光東照宮を勧請した際、岩坪神社の獅子舞連中が因幡東照宮(現:鳥取東照宮)の祭礼に招かれて御遷宮に奉仕し、權現堂古流三方舞の獅子舞を伝授されたと言われています。光仲はこの獅子に「揚羽の蝶」の定紋の使用を許可し、以来それが岩坪神社の社章となっています。

ここがポイント！

- ◎獅子頭と「揚羽の蝶」の定紋が入った「神輿」を見学します。
- ◎岩坪周辺は山陰海岸ジオパークエリアにもなっていて、岩坪の地名の由来にもなった甌穴は必見です!!



大和佐美命神社

秋祭り

大和佐美命神社では、上砂見地区の雌獅子と中砂見大湯棚地区の雄獅子による奉納舞が行われます。

どちらも「正統權現流」と称して、因幡東照宮から習ったという伝承があり、鳥取県指定無形民俗文化財に指定されています。

ここがポイント！

- ◎1つの神社で2つの獅子舞を見ることができます！
- ◎麒麟獅子舞では、珍しい剣の舞があります(上砂見)。



大湯棚地区

秋祭り

神社での獅子舞が終わると、それぞれの地区で氏子の家々をまわります。大湯棚では、これを「門打ち」と呼び、全戸をまわっています。また、大湯棚地区の獅子頭は江戸中期の作といわれ、麒麟獅子頭の傑作として県指定保護文化財に指定されています。両眼は巨大なほどに見開き、大きな鼻の穴は天に向いて、威厳があります。

ここがポイント！

- ◎地区のみなさんとふれあうことができるかも？！



鳥取東照宮・鳥取市歴史博物館(やまびこ館)

池田光仲が、鳥取東照宮を建立した2年後の承応元年(1652)に行った祭礼に、獅子舞と猩々を組み合わせて登場させたのが麒麟獅子舞の始まりだと考えられています。東照宮祭礼を描いた絵巻には、角を持つ獅子が描かれています。

ここがポイント！

- ◎麒麟獅子舞のおこりを学習します。
- ◎貴重な絵巻を鑑賞します！



東照宮祭礼行行列絵巻(個人蔵)、画像提供:鳥取市歴史博物館